

令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立瑞穂野南小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問調査）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	23人	算数	23人	理科	23人
第5学年	国語	25人	算数	25人	理科	25人

5 留意事項

(1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

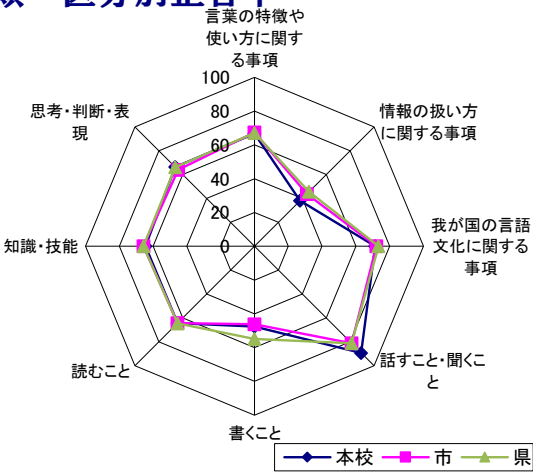
(2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

(3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立瑞穂野南小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	66.7	67.4	67.1
	情報の扱い方にに関する事項	38.1	43.8	45.7
	我が国の言語文化に関する事項	71.4	72.1	73.4
	話すこと・聞くこと	89.3	81.2	81.2
	書くこと	47.6	46.2	54.9
観点	読むこと	64.3	64.3	64.5
	知識・技能	64.5	65.7	65.7
	思考・判断・表現	66.4	64.0	66.3



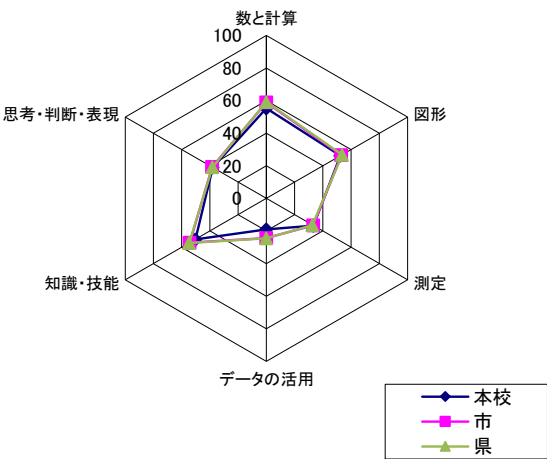
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、県や市の平均よりやや低い。 ○主語と述語の組み合わせについて選ぶ設問については、正答率が高く良好である。 ●漢字の読みは正答率が高いが、書きについての設問は全て県や市の平均正答率を下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字を正しく読むことや書くことの既習内容を定着させていくために、確認として小テストを行ったり、新出漢字を意図的に使って短作文を書かせたりするなど、繰り返し指導していく。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、県や市の平均より低い。 ●国語辞典で調べた単語の意味を、文脈から推測してふさわしいものを選ぶことに課題が見られる。	・今後も国語辞典を活用した学習を意図的に設け、資料を読み取り、必要な情報を選ぶ場面を設けていく。 ・教室に国語辞典を置くことで、分からない単語をすぐに調べられる環境を保っていく。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、県の平均より低く、市の平均よりやや低い。 ●漢字のへんやつくりについての理解がやや低い。 ●漢字の書きに課題があるため、既習の漢字を忘れてしまっている可能性も考えられる。	・漢字の学習時に、「へん」や「つくり」についてその都度確認することで定着を図っていく。 ・今後も漢字の成り立ちや部首について取り上げることで、「へん」や「つくり」についての理解を深めていく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、県や市の平均より高い。 ○相手に伝わるように、自分の考えを、理由を挙げながらまとめることがよくできている。 ●参加者の発言の内容に着目して、司会者の発言に適する内容を書く設問では、71.4%と県や市の平均よりやや低い結果となっている。	・国語の授業だけでなく、学級活動や学校行事の話し合いの中でも、参加者から出た考えをまとめる活動経験をさせていく。 ・授業で意見を発表する時も、理由や意図を踏まえて発表できるように指導していく。
書くこと	平均正答率は、県の平均より低く、市の平均よりやや高い。 ○自分の考えを明確にして文章を書く設問では、県の平均を6ポイント上回った。 ●段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書くことができるかどうかをみる設問では、県の平均を5.5ポイント、市の平均を14.3ポイント下回った。	・文章を書くときだけでなく、読み取るときにも段落のまとまりを意識できるよう指導していく。 ・授業で自分の考えを明確にしたり、理由を書いたりする機会を意図的に設けることで、書く力を伸ばしていく。
読むこと	平均正答率は、県や市の平均とほぼ同じである。 ○物語や説明文の叙述を基に、人物の心情や内容を読み取り解答を選択する設問では、正答率が高い。 ●情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文をみつけて要約する設問では、県の平均より14ポイント、市の平均より16.7ポイントと大きく下回った。	・物語や説明文を読む際に、段落ごとの要点を整理してノートにまとめたり、筆者がその文章で伝えたいことは何か話合ったりすることで、要点をおさえた読み取りができるよう指導していく。

宇都宮市立瑞穂野南小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	55.3	58.9	59.2
	図形	52.4	53.0	53.7
	測定	33.3	33.1	32.6
	データの活用	19.1	24.4	24.6
観点	知識・技能	50.3	54.3	54.7
	思考・判断・表現	38.1	38.5	38.3



★指導の工夫と改善

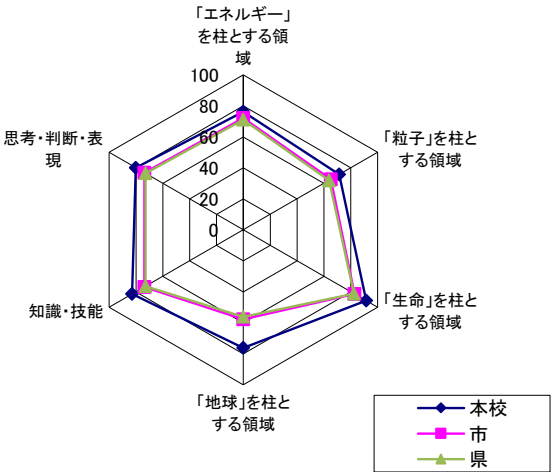
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、県や市の平均より低い。 ○2けた÷1けた=1けた(余りなし)の計算がよくできている。 ●大きな数の表し方を理解しているかどうかをみる設問では、正答率が19.1%と、市の平均を26ポイント下回り、課題が見られる。	・基本的な計算の技能を身に付けることができるように、がっちり学習の時間やAIドリルを活用して定着を図る。 ・位取り板を活用したり、数をまとまりでとらえたりする機会を多く設定し、大きな数について多面的に捉えられるようにする。
図形	平均正答率は、県や市の平均よりやや低い。 ○半径と直径について理解し、球の性質を利用し長さを求めることができるかをみる設問は、市の平均を11.3ポイント上回った。 ●円の性質を理解して、正三角形を作図することができるかどうかをみる設問では、市の平均を10.3ポイント下回り、課題が見られる。	・作図をする活動を意図的に設け、コンパスやものさしを正しく使うことができるようにする。 ・図形が出てくる授業の際に、関係図形の性質を復習したり、がっちり学習の時間などに、図形の性質を使った問題に繰り返し取り組みせたりして、図形の性質について理解できるようにする。
測定	平均正答率は、県や市の平均とほぼ同じ。 ○重さの単位を理解し、合計の重さの大小を比較することができるかどうかをみる設問は、市の平均を11.8ポイント上回った。 ●時間と時刻を理解し、時間を求めることができるかどうかをみる設問では、正答率が19.1%と、市の平均を15.7ポイント下回り、課題が見られる。	・校外学習や遠足などで計画を立て時間について考える機会を意図的に設ける。 ・身の回りのものの長さや重さ、その単位を意識させ、生活経験を通して見当を付けることができるよう、指導していく。
データの活用	平均正答率は、県や市の平均より低い。 ●棒グラフの特徴と利点を理解し、身の周りの事象について活用できるかどうかをみる設問は、正答率が4.8%と低く、課題が見られる。	・1目盛りの大きさに注目しながら数直線やグラフを読み取る活動を、社会や総合的な学習の時間などにも取り入れ、棒グラフの特徴やよさについて繰り返し指導し、グラフを正しく読み取ることができるようにしていく。 ・グラフの読み取りをする際、そのよさを感じられるよう指導し、実感を伴った理解ができるようにしていく。

宇都宮市立瑞穂野南小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	76.2	72.1	71.0
	「粒子」を柱とする領域	71.4	65.2	63.9
	「生命」を柱とする領域	91.5	82.8	82.4
	「地球」を柱とする領域	76.2	57.7	56.2
観点	知識・技能	82.9	73.8	72.8
	思考・判断・表現	80.2	73.7	72.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、県や市の平均より高い。 ○電気を通すものについて理解しているかどうかをみる設問では、正答率が非常に高い。実験を通して得た知識がよく身に付いていると考えられる。 ●風が強くなるとものを動かすはたらきが大きくなることを短文式で回答する設問では、市の平均を4.6ポイント下回った。	・今後も、実験しながら学ぶ機会を多く設けることで、経験したことを根拠に問題に解答できるようにしていく。 ・実験の結果を共有する際に、結果のみに着目するのではなく、結果から考えられることを自分の言葉でまとめる活動を意図的に設ける。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、県や市の平均より高い。 ○形を変えても重さは変わらないことについて理解しているかどうかを選択式で回答する設問では、正答率が非常に高い。 ●同じ体積でもものの種類によって重さがちがうことについて表と関連付けて考えることができるかどうかをみる設問では、市の平均を上回っているものの、正答率は47.6%に留まった。	・今後も、体験を通して学ぶことを重視し、実感をもって知識を身に付けられるようにしていく。 ・実験結果から、日常の似通った事象はどうなるかを推測できるようにするために、映像や写真を用いたり、キーワードを示したりしながら場面を示すことで、考えを広げるような活動を意図的に設定する。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、県や市の平均より高い。 ○昆虫のすみかについて理解しているかどうかをみる設問では、正答率が100%と高い。 ●虫めがねの正しい使い方を身に付けているかどうかをみる設問では市の平均を上回っているものの、正答率は、61.9%であった。	・今後も、授業で扱う内容と日常の事象を結びつけて考えることができるように、身近なものを例に挙げながら授業を展開していく。 ・実験器具を操作する機会を多く取り入れたり、使用法に関する映像を見せたりすることで正しい器具の使い方を身に付けることができるようにする。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、県や市の平均より高い。 ○かげが太陽の反対側にできることを理解し、かげふみの動きと結び付けられているかどうかを見る問題では正答率が高い。 ●方位磁針の使い方を身に付けているかどうかをみる設問では、市の平均を上回っているものの、正答率は、61.9%であった。	・今後も、生活の中で、理科的な視点をもって様々な事象をみるよう、働きかけていく。 ・日常的に、方位を用いて位置を示す活動を意図的に取り入れ、方位の定着を図る。

宇都宮市立瑞穂野南小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○家庭学習面では、「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」「家で、学校の授業の復習をしている」「家で、テストで間違えた問題について勉強している」の肯定割合が県や市の平均より高く、計画を立て意欲的に家庭学習に取り組んでいることが分かる。

○「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」など学ぶ意欲に関して県や市の肯定割合を上回っている事項が多く、学習に対して前向きな児童が多いことがうかがえる。

○学校での様子について「毎日の生活がじゅう実していると感じる」や「学校のきまりを守っている」などの項目において肯定割合が市を上回っている。学校では決まりを守って充実した生活が送れているということがうかがえる。

○授業への取組については、「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」、「クラスの友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広めたりすることができている」、「クラスは発言しやすいふん囲気である」の項目において「はい」と答えた割合が県や市の平均より10ポイント以上高い。今後も話し合いや発表などの活動の充実を図りつつ、発言しやすいふん囲気づくりにも努めていく。

●家での生活では、「毎日朝食を食べている」、「睡眠時間が8時間以上」などの項目において市の平均を下回っていることから、規則正しい生活を送れていない児童の割合が高いことがうかがえる。

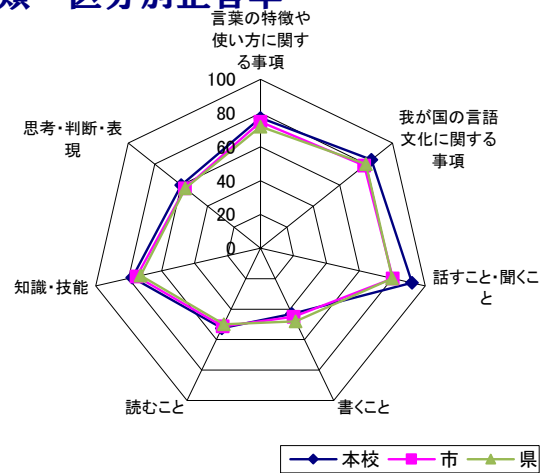
●読書については、ふだん(月～金曜日)1日当たり10分より少ないと答えた割合は52.2%と、半分以上の児童があまり本を読めていない状況である。今後は朝の読書の時間を活用し、幅広い分野に興味をもたせたり家読を推進したりしながら継続して読書の時間がとれるようにしていく。

●「自分にはよいところがあると思う」の質問に「はい」と答えた児童は市の平均を22.8ポイント下回っている。自己肯定感の低い児童が多くいるようなので、家庭とも連携しながら児童が「できた」、「嬉しい」と思える機会を増やし、自信をもって活動に取り組めるよう努めていく必要がある。

宇都宮市立瑞穂野南小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	77.2	74.8	72.0
	我が国の言語文化に関する事項	84.0	78.6	79.9
	話すこと・聞くこと	92.0	80.4	80.0
	書くこと	43.0	45.1	48.0
	読むこと	52.5	51.3	50.0
観点	知識・技能	77.8	75.2	72.8
	思考・判断・表現	60.0	57.0	57.0



★指導の工夫と改善

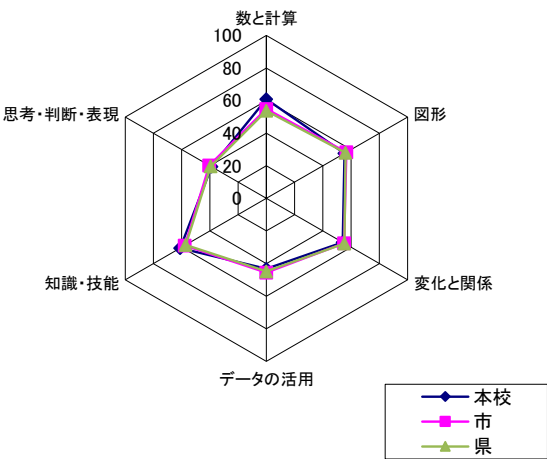
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は県や市の平均より高い。 ○熟語の漢字の組み合わせの種類が同じものを選ぶ問題では、市の平均を8.2ポイント上回った。 ●修飾語を選ぶ問題の正答率は、市の平均より13ポイント下回った。また、被修飾語を選ぶ問題の正答率も16.0%と低い。修飾語と被修飾語の関係を捉える問題で課題が見られる。	・物語や説明文の読み取りの活動においても、文のつくりを考える時間をとり、修飾語・被修飾語の関係について理解を深める。 ・定期的に漢字小テストを実施し、新出漢字の定着を図っていく。また、音読や読書などを通して漢字の使い方や読み方を復習していく。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は県や市の平均より高い。 ○慣用句の意味を正しく理解し、文に合ったものを選ぶことができる。	・ことわざや慣用句などを調べる活動を取り入れ、多くの言葉に触れる機会を増やし、語彙力を高めることに繋げていく。また、覚えたことわざや慣用句を使う活動も合わせて行い、定着を図るようにしていく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は県や市の平均より高い。 ○話し手が伝えたいことの中心を正しく捉えることができる。 ●司会者の役割を果たしながら話し合い、参加者の意見を基に考えをまとめることができるかをみる問題で課題が見られる。	・1分間スピーチなどで、相手意識をもって分かりやすく話す機会を多く設定する。また、その際に自分とどこぞや違うところを意識して聞くよう指導することで、普段から相手の意見を聞いて、共通点や相違点に着目できるようにする。
書くこと	平均正答率は県や市の平均より低い。 ●指定された長さで文章を書いたり、内容の中心を明確にし、事実と自分の考えを書いたりすることに課題が見られる。	・授業で文章を書く際には引き続き、教師から文字数を指定するなど、一定量の文章を書く機会を設けていくことに加え、内容についても充実させることができるよう指導していく。 ・グラフや図などの資料を読み取り文章を書く際には、事実と考えを区別して書くことができるようにする。
読むこと	平均正答率は県の平均より高く、市の平均よりやや高い。 ○要約した文の空欄に適する語を、叙述から抜き出す問題への正答率は60%だが、県や市の平均を大きく上回っている。 ●文章を読んで感じたことや考えたことを共有すること、叙述を基に文章の内容を捉えることに課題が見られる。	・文章の内容を確認する際には、要旨を確認するだけでなく、要約を作文させることも併せて指導することで、叙述された言葉を根拠に内容を捉える力を定着させられるようにする。 ・授業で自分の考えを書く際には、共同閲覧機能等を活用して友達と書いた内容について交流することで、様々な表現に触れられるようにする。

宇都宮市立瑞穂野南小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	60.9	54.9	53.7
	図形	55.3	56.6	56.1
	変化と関係	54.0	55.1	55.2
	データの活用	43.2	45.5	44.8
観点	知識・技能	61.1	57.8	57.2
	思考・判断・表現	38.9	40.6	39.5



★指導の工夫と改善

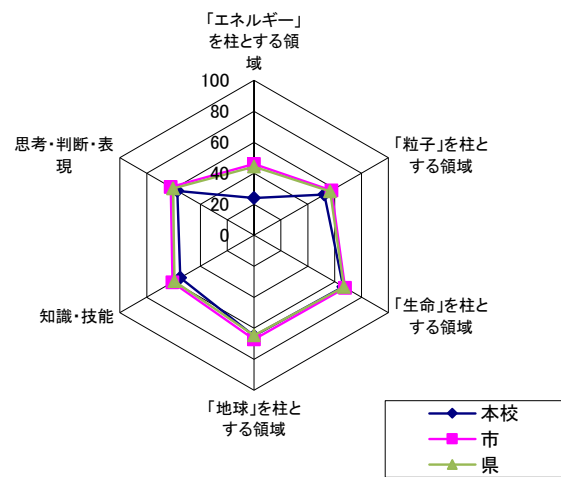
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は県の平均、市の平均の両方を上回った。 ○目的に応じて数を見積もり説明する問題では、概数を用いて説明することができている。 ○小数÷整数の計算はよくできている。 ●小数の大きさについて説明する問題では、平均正答率が28%であり、県や市の平均よりも低く、課題が見られる。	・小数に関係する学習において、小数の仕組みを復習する時間を設定し、定着を図る。 ・がっちり学習の時間やAIDリルを活用して、基本的な計算の技能を身に付けることができるようにする。
図形	平均正答率は県や市の平均よりやや低い。 ○平行四辺形の作図については、図形の性質を理解し、コンパスや定規を用いて正確に描くことができている。 ●示された求め方をもとに、面積を求める正しい式を選ぶ問題では、正答率が県や市の平均を12ポイント下回り、課題が見られる。	・面積や体積についての学習では、図と式の両方を用いて求め方を説明する活動を取り入れていく。また、求め方をグループや学級全体で共有する時間を意図的に設けることで、「分ける」「引く」といった複数の考え方に触れさせ理解を深めていく。
変化と関係	平均正答率は県や市の平均よりやや低い。 ○表を横に見ることで、伴って変わる2つの数量関係を正しく読み取ることができている。 ○ある数を1と見て割合を表す問題では、市の平均を7.5ポイント上回った。 ●割合を使って比べ方を説明する問題では、正答率が16%と課題が見られる。	・今後も、表を縦に見たり横に見たりして変化を読み取る活動を引き続き取り入れ、目的に応じて表から必要な変化を読み取れるようにする。 ・割合を求めることはできるが、求めた割合をもとに説明することに課題が見られるため、説明の流れを示し表現する活動を繰り返し取り入れていく。
データの活用	平均正答率は県や市の平均より低い。 ○二次元の表を読み取る問題では、正答率が市の平均より高い。 ●グラフから必要な数値を読みとり、それをもとに変化の様子を説明する問題では平均正答率が8%と低い。 ●グラフから必要なことを読み取ったり、それをもとに説明したりことに課題が見られる。	・グラフを扱う時間では、1目盛りの大きさを確認する時間を設定し、グラフの読み取りについて定着を図る。 ・算数の時間だけでなく、理科や社会の時間でもグラフをもとに考察する機会を設け、読み取った情報から分かることを自分の言葉でまとめられるようにしていく。

宇都宮市立瑞穂野南小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	24.0	46.0	44.3
	「粒子」を柱とする領域	52.4	57.7	56.6
	「生命」を柱とする領域	66.4	67.8	66.9
	「地球」を柱とする領域	64.9	67.2	64.6
観点	知識・技能	54.9	60.8	59.2
	思考・判断・表現	57.2	62.1	60.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は県や市の平均より大幅に低い。 ●乾電池のつなぎ方とその名称の理解が不十分である。 ●簡易検流計の針のふれ方から分かることを答えたり、電流の大きさが同じになる回路を選んだりすることに課題が見られる。	・エネルギーの問題に関しては、実験・観察を通して実体験を伴った理解を促したり、理科学的なキーワードを正しい語句で覚えたりできるよう、指導していく。 ・いろいろな回路図を簡易検流計を使って電流の向きや大きさを確かめながら、直列つなぎと並列つなぎに分類する活動を取り入れ、理解が深まるようにする。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は県や市の平均より低い。 ○湯気と水蒸気の違いについて、ある程度理解できている。 ●とじこめた空気・水の性質の理解や、身近な出来事と関連付けることに課題が見られる ●水が沸騰したときの泡の正体について、実験の結果をもとに推測し理由を説明することに課題が見られる。	・今後も温度による水の状態の変化について、日常生活の様々な場面で意識させ、理解を図れるようにする。 ・学習の振り返りの時に、学んだことが日常生活とどう繋がっているのか考えさせる活動を取り入れる。 ・一人一人が見通しをもって実験し、結果から考えられることを自分の言葉でまとめる活動を積み重ねる。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は市の平均よりやや低い。 ○季節ごとの動物の活動についてよく理解できている。 ●夏の植物の成長についての理解に課題が見られる。 ●骨と関節の名称、筋肉の働きについての理解に課題が見られる。	・生命の問題に関しては、観察によって理解を深めることが多いため、観察カードの蓄積や、必要に応じて映像教材を有効に活用するなどして学習内容について定着を図っていく。その際、前回の観察時との違いにも目を向けさせることで、より実感を伴った理解へとつなげていく。 ・骨や関節、筋肉の働きについて、骨格標本や筋肉の模型図と自分の体の動きとを比べることで理解を深めさせる
「地球」を柱とする領域	平均正答率は県や市の平均より低い。 ○実験の結果から水の流れる向きを読み取ったり、水の流れを身近な出来事と関連付けて考えたりすることがよくできている。 ●蒸発の名称や、水蒸気がどうなると水に戻るのかについての理解に課題が見られる。 ●星の動きと星座の並びについての理解に課題が見られる。	・地球の問題に関しては、実験や観察を通じた理解が重要ではあるが、授業の時間だけで実験や観察が完了できなかったり、不十分だったりするものも多い。そのため、必要に応じて映像教材等も活用しながら学習内容の理解を図れるようにする。 ・学習したことをキーワードを使って、「何が分かったのか」を自分の言葉でまとめ説明させる活動を取り入れ、基礎的な知識の定着を図る。

宇都宮市立瑞穂野南小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「勉強していて、「不思議だな」「なぜだろう」と感じることもある」や「勉強していておもしろい、楽しいと思うことがある」といった学習意欲に関する設問において、肯定割合が90%を超え、県や市の平均より高くなっている。様々なことに疑問をもち、興味や関心をもって学習していることがうかがえる。今後も引き続き、意欲的に学習できるよう工夫した授業づくりなどを行っていく。

○「毎日の生活が充実している」の肯定割合が100%であり、学校生活に満足していることがうかがえる。また、「クラスは発言しやすい雰囲気である」の肯定割合が92%で県や市の平均より高い。「学校での役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる」の肯定割合は100%であり、一人一人が役割をもって生活している。今後も安心して過ごしやすい環境づくりに努めていく。

○「自分にはよいところがあると思う」の肯定割合は92%で、「自分のよさを人のためにいかしたいと思う」の肯定割合が96%とどちらも県の平均より高い。また、「人と話すことは楽しい」の肯定割合が100%であった。自己肯定感が高く、積極的に他者と関わろうとしていることがうかがえる。今後もより良好な人間関係を築けるよう、自分の考えを伝える力と相手を受け入れ聞く力を育てていく。

●「ふだん(平日)一日当たりどれくらいの時間、テレビやDVD、動画などを見たり、聞いたりしますか(テレビゲームはのぞく)。」の質問で4時間以上と答えた児童が28%で県や市の平均より10ポイント高い。毎日時間を決めて過ごし、健やかな成長と健康のために、改めて基本的な生活習慣の大切さを家庭と協力しながら支援していく必要がある。

●「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」の質問で、「どちらかといえばいいえ」と回答した児童が24%で、県や市の平均より高い。1時間の授業を通して「何が分かったか」「何ができるようになったか」といったポイントを示しながら、学習を振り返る時間を設定していく。

宇都宮市立瑞穂野南小学校 (第4・5学年共通) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎基本の定着を図る取組	朝の活動において「がっちり学習」として、全学年2人体制で、基礎的・基本的な内容の問題に取り組む活動を実施している。また、授業においても、前学年の内容を振り返り、定着を図れるようにしている。	5年生では国語と算数、4年生では理科の知識・技能の観点別の正答率が、県や市の平均を大きく上回った。4年生の国語では知識・技能の観点別の正答率は、市の平均正答率より低いが、思考・判断・表現の観点別の正答率は市の平均正答率より高い。
家庭学習の習慣化に向けた取組	3～6年生では家庭学習ノートを用いた自主学習を学年に応じた目標時間取り組むように指導している。また、年に2回「家庭学習強化週間」を全学年実施して、家庭との連携を図っている。	4・5年生ともに、自ら学習に取り組む態度に関わる「家で、自分で計画を立てて勉強している」の設問で肯定的な回答した児童の割合は8割以上と市の平均を大きく上回った。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
4・5年生ともに、算数では大きな数の表し方を理解したり、グラフから目盛りを読み取ったりする問題の正答率が市の平均よりも下回っている。	基礎的・基本的な学習内容の定着とそれに基づく知識の理解の質を高める取組	- 朝の活動において、宮っ子学カステップアップシート等を活用し、全校で同じ領域に取り組む機会を設け、重点的に復習することで、学習内容の定着を図る。 - 授業の中で、漢字や計算方法等の知識のみでなく、数の仕組みを考えるなど、授業内容を日常生活と結びつけるなどして、より深い理解につなげられるようにする。